

総合・国際	米 パリ協定離脱を通告	4面
経済	コンビニ 厳しい経営実態	7面
スポーツ	侍ジャパン 白星スタート	17面
社会	首里城 電気系統トラブルか	31面
社説	パリ協定離脱/米機の墜落原因	5面

東信	台風乗り越え届ける味	
北信	長野のにぎわい市10年	
中信	現代舞踊身近に感じて	
諏訪	諏訪湖にもう冬の使者	
飯田伊那	高校生とプロ合唱共演	
地域ニュース	22-25面	

2019年(令和元年)

11月6日

水曜日

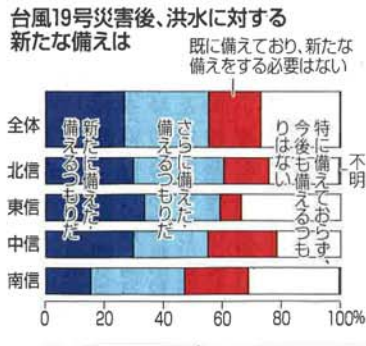
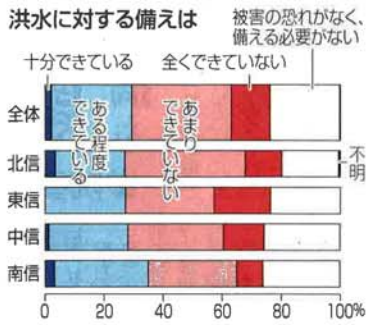
台風19号 関連記事

上田-田中 来週中再開へ	2面
防災意識 地域差	3面
建物共済支払額見込み	6面
若者 リンゴ農家支援へ	30面
アジサイ「奇跡」再び	31面
被災地を歩く 東御・上田	28面

台風19号 生活情報 29・地域面

「洪水の備え不十分」半数

緊急県民意識調査 北信53% 東信49%



台風19号災害を受け、県世論調査協会は災害や水害に関する緊急県民意識調査を行い、5日、結果をまとめた。洪水に対する備えが「できていない」「十分」「ある程度」の合計は29%にとまったのに対し、備えが「できていない」「あまり」「全く」の合計は47%に上り、多くの県民が洪水への備えが足りないと考えている実態が浮かんだ。台風被害が大きかった東北信地域では、台風を契機に洪水への防災意識が高まりつつあることも浮かんできた。

【主な質問と回答の面、焦点3面に】

調査は10月25〜27日に実施し、611人の回答を得た。

洪水の備えが「十分できている」は2%、「ある程度できている」は27%、「あまりできていない」は34%、「全くできていない」は34%。被害の恐れがなく、備える必要がない「は24%だった。地域別で見ると、備えが「できていない」としたのは北信が最も多い。東信は49%、東北信地域で、洪水に対する備えが不十分との意識が高い傾向がある。中信は46%、南信は39%。

一方、今回の災害後、洪水に対する新たな備えをした人は55%に上った。特に「食料や水の備蓄」が最多。「家族や身近な人に備えておらず、今後も備えるつもりはない」は27%、「既に備えており、新たな備えをする必要はない」が53%が続いた。



千曲川の堤防決壊で浸水被害を受け使用できなくなった長野市長沼支所=10月24日

長野・長沼に住民交流拠点

市長開設方針「心のよりどころに」

台風で支所浸水 年内まず仮設で

長野支所は、10月13日決壊した堤防のすぐ脇にある。室内は土砂が流入した衝撃で併設する公民館や体育館と、机などが散乱、使用できなくな

台風19号による大規模な浸水被害を受け、700人以上が避難生活を送っている長野市の加藤久雄市長は5日、信濃毎日新聞のインタビューに対し、復旧・復興に向けた考えを述べた。千曲川の堤防決壊で支所が大破した長沼地区には、在宅避難者や地区外に避難した人の両者が利用できる交流や支援の拠点として「交流センター」(仮称)を設ける考えを明らかにし、年内のなるべく早い時期に仮設の建物で開設する方針を示した。

【関連記事地域面北信に】

なると。市地域活動支援課によると復旧の見通しが立っていない。市長が考える交流センターは、支所敷地などを仮補に仮設し、これまでも支所に置いていた自治組織「長沼地区住民自治協議会(住民協)」の事務局なども置く。一帯が浸水した長沼地区では、多くの住宅が全壊や半壊などの被害を受け、住民が避難生活を送らざるを得ない。市長は、今後、避難者が地区外の公営住宅や仮設施設に転居することで「住民が安心して生活できるようにしたい」と述べた。

在宅避難者や民間の賃貸住宅を借り上げた「みなし仮設住宅」に入居した被災者の孤立を防ぐことも重視。必要なら支援につなげるため、住民協関係者や民生委員、市の保健師が連携を取りながら戸別訪問をする事業も、交流センターを拠点に展開するとして

信濃毎日新聞

1873年(明治6年)創刊

発行所
信濃毎日新聞社
長野本社 〒380-8546
長野市朝陽町 657番地
電話(026)
受付236-3000 編集236-3111
販売236-3310 広告236-3333

松本本社 〒390-8585
松本市中央 2丁目20番2号
電話(0263)
代表32-1200 報道32-2830
販売32-2850 広告32-2860

©信濃毎日新聞社2019年

バルブの総合メーカー

株式会社 キッツ

本社：千歳県千歳市美浜区
生産拠点：長野県伊那市・茅野市
山梨県北杜市

天気

最高気温 最低気温

地域	6時	12時	18時	24時	最高気温	最低気温
北部	☀	☁	☀	☀	14	2
長野	☀	☁	☀	☀	15	2
大町	☀	☁	☀	☀	15	0
松本	☀	☁	☀	☀	17	1
上田	☀	☁	☀	☀	18	1
佐久	☀	☁	☀	☀	17	-1
諏訪	☀	☁	☀	☀	15	1
木曾	☀	☁	☀	☀	16	0

災害ごみ 県外業者処理開始

長野市分 富山2社で

台風19号で被災した長野市で発生した大量の災害ごみで、環境省は5日、富山県の民間の産業廃棄物処理事業者2社が受け入れを始めたと明らかにした。長野市が自前で処理しきれないとして長野県を通じて支援要請し、さらに三重県の1社も受け入れる方向。同様の要請をしている千

曲市の災害ごみも、三重県の1社と愛知県の業界団体1団体の受け入れが近く決まる見通しという。同省中部地方環境事務所（名古屋市中）によると、長野、千曲市の災害ごみは現在仮置き場に集まっている泥に漬かった家財道具などに加え、今後は解体される建物の廃材な

どもあり、最終的に数十万ト規模になる見込み。両市の支援要請を受け、中部地方の各県が民間事業者を受け入れを打診した。同省によると長野市と千曲市の災害ごみを受け入れる富山県や三重県などの産廃処理事業者は、可燃ごみの焼却や資源物のリサイクル、最終処

分場などを手掛け、家電リサイクル法に基づきメーカーが再資源化する冷蔵庫などの家電4品目を除き処理・処分ができる。富山市の2社は10月30日ごろから長野市の災害ごみの搬出を本格化しているという。

災害ごみのうち可燃ごみは、長野市や須坂市の排出分を焼却する長野広域連合の「ながの環境エネルギーセンター」（長野市）が処理能力を超えるとして同28日から受け入れを休止するなどしており、県内で焼却施設を運営する一部事務組合などにも県が受け入れを要請している。

北 信

「復興計画住民と話し合う」

加藤・長野市長 一問一答

長野市の加藤久雄市長は5日の信濃毎日新聞のインタビューで、台風19号で被災した市内地域の復興の進め方について「地域の住民と話し合いながら方向性を見いだしたい」と述べ、地域の意向を尊重して検討を進める考えを示した。被災地の土砂や災害ごみの撤去、子どもの支援なども課題に掲げた。主なやりとりは次の通り。

【一面参照】

「土砂とごみ撤去 できるだけ早く」

「台風19号に伴う風水害の発生から3週間が過ぎた。被災者は人生が狂わされる「残念ながら2人が亡くな



インタビューに答える長野市の加藤久雄市長＝5日午前11時22分、市役所

朝から自衛隊や消防、警察などが捜索、安否確認を行った。市はもちろん国や県も早期対応に当たり、中核市の応援やボランティアもすぐ現場に入ってくれた。激甚災害への指定など、国の対応も日に日に進んでいる」

「目下の課題と対応は。農地に大量にたまった土砂は、取り除いて何らかの形で再利用できないか考えている。まずは農道をできるだけ早く通れるようにしたい。一方、例えば赤沼公園の災害ごみを取り除くには半年や1年はかかるだろう。できるだけ早く撤去し、見た目を含めて平穏な生活(環境)をつくる必要がある」

「今回の被災地は今後も浸水被害の可能性がある。(自然災害は)どこでも起こり得る。被害を最小限にとどめる対策を練る必要がある。堤防の強化だけでなく、遊水地やダムなどの整備も含めて根本的に考え直す必要がある。先祖伝来の土

地から離れられないという人もおり、復興計画は住民と話し合い方向性を見いだしたい」

「被災した子どもたちの支援はどうか。被災した保育園は仮設の建物を作る。再開に向けてできるだけ早くやりたい。(避難所などを)心のケアチームが巡回しているが、遊び(の確保)も大事なので関係機関・団体と連携して取り組む」

制限時間内に指定地点を回って写真を撮り、得点を競う野外スポーツの一種「フォトロゲイニング」の催しが、須坂市塩川地区で開かれた。台風19号で県内が被災したことを受け、改めて防災意識を高めようと、地域の避難所や防火水槽などを巡る地点に設定。住民約60人が参加した。

毎秋開く運動イベントの1環。2、3人ずつでつくる各チームが地区の公会堂を発着地点に、1時間半〜2時間ほどかけ



て地区内を散策。28カ所の地点が記された地図を読みながら、避難所に指定されている地元の日野小学校や消火栓などを撮影していった。

「初めは乗り気じゃなかった」と話す長和久さん(64)のチームは、途中で競技にのめり込み、最高得点で優勝。「楽しみながら防災拠点を確認できる機会になったと思います」と話していた。

避難場所に指定されている小学校前で写真を撮る参加者たち

防災拠点 撮影し巡る 須坂で「フォトロゲイニング」



「次回の開催にぎわい市で」豊野の農産物をお届けできる」と笑顔を見せた。

同市若穂地区の団体のメンバー「倉島幸子さんは、千曲川近くの長芋や大根の畑が泥水に漬かり「今年の収穫は難しい」。にぎわい市には長年出店しており「いつも楽しみに買いに来てくれる人がいるので、来年はまた頑張る。地域の農家は高齢者が多いが、みんなで続けていきたい」と前を向いた。

今年のにぎわい市は12、19、26日にも開く。

長野の「にぎわい市」10年 台風被災農家も出品

長野市問御所町のTOIG O(トイゴ)広場で5〜11月の毎週火曜に開く農産物市「長野銀座にぎわい市」の開催10年目を記念した「大感謝祭」が5日、同広場であった。生産者などの市内の11団体が出店。台風19号で自宅や畑が被災した生産者もいるが、主催する長野銀座商店街にぎわい市の「大感謝祭」で野菜などを買い求める人たち

5日、長野市問御所町

振興組合は「長野市の農業が元気だという姿を見せていきたい」とし、会場には被災地支援のための募金箱も置かれた。

にぎわい市は、中心市街地や中山間地農業の活性化を狙って2010年に開始。大感謝祭では、市内産のコメやリンゴ、商店街の商品券が当たる抽選会もあった。

生産者の一人、善財三枝子さん(72)は同市豊野町の自宅が被災。この日は市内の他地

被災地を歩く

東御市・上田市 5日



崖のよう
自宅近くに迫った崖崩落現場を見る北吉さん(左)と原田さん。奥は一部が壊れた海野宿橋。5日午前10時16分、東御市海野宿

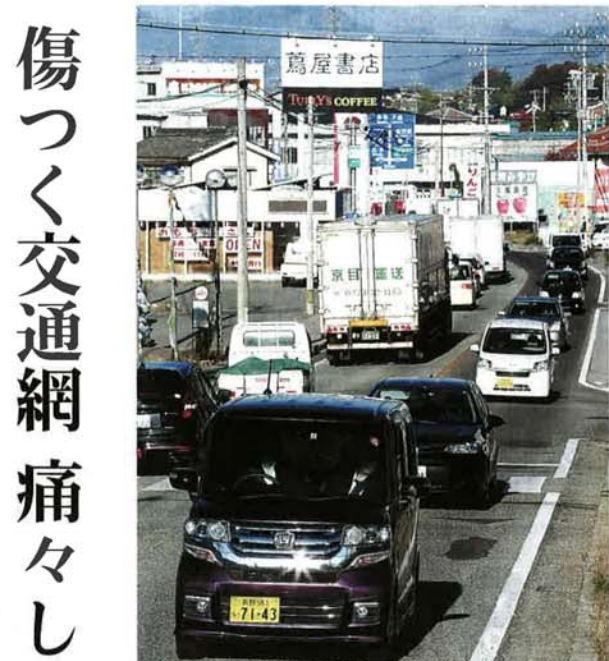


木々が色づき始めた海野宿。例年ならにぎわう季節だが、観光客は減少している。右奥では海野宿橋護岸崩落の復旧工事が進む＝5日午前11時13分、東御市海野宿



台風19号の記録的な大雨で千曲川や支流が濁流となり、護岸や橋、道路などが大きな被害を受けた上田小島地域。しなの鉄道と由電鉄別所線の一部区間運休や、幹線道路の通行止めなど交通網への影響が甚大。東御市海野宿では、千曲川の護岸が崩落、北吉さん(70)と原田さん(70)は自宅前まで川が迫り、市営住宅に避難している。5日、崖のようになった自宅前立ち、以前は見えなかった千曲川を眺めた。「いつ戻れるのか。慣れない避難生活に精神的な疲れも出ている。護岸崩落で市道の海野宿橋の一部が壊れ、しなの鉄道が上田田中間で運休する原因にもなった。国と県による護岸や橋の復旧工事は24時間態勢で進んでいる。

傷つく交通網 痛々しく
台風19号の記録的な大雨で千曲川や支流が濁流となり、護岸や橋、道路などが大きな被害を受けた上田小島地域。しなの鉄道と由電鉄別所線の一部区間運休や、幹線道路の通行止めなど交通網への影響が甚大。東御市海野宿では、千曲川の護岸が崩落、北吉さん(70)と原田さん(70)は自宅前まで川が迫り、市営住宅に避難している。5日、崖のようになった自宅前立ち、以前は見えなかった千曲川を眺めた。「いつ戻れるのか。慣れない避難生活に精神的な疲れも出ている。護岸崩落で市道の海野宿橋の一部が壊れ、しなの鉄道が上田田中間で運休する原因にもなった。国と県による護岸や橋の復旧工事は24時間態勢で進んでいる。



鉄道の寸断、海野宿橋や田中橋の通行止めなどが影響し、渋滞が悪化している国道18号＝5日午前8時16分、上田市大屋



上田電鉄別所線の鉄橋(左奥)が崩落し、途切れた線路。復旧工事にシールが跳ね上がらないようロックが働いている＝5日午後3時14分、上田市飯形



浸水被害を受けた旅館「布引観音温泉」。年内の宿泊客受け入れを目指し、現在は日帰り入浴のみ時間を短縮して営業している＝5日午後1時18分、東御市布下

被災者の住まい確保への公的支援の基本的な流れ
住家流出または床上1.8m以上の浸水
全壊
応急仮設住宅に入居可能
無償
応急修理費支援は利用不可
床上1m以上1.8m未満の浸水
大規模半壊
土砂などで住宅として再利用できない
修理のため長期間自宅に住めない
短期間で最低限の修理をして自宅に戻りたい
床上で1m未満の浸水
半壊
住宅の応急修理費支援
上限59万5000円
(仮設住宅は入居不可)
半壊に至らないが、住宅の損害割合が10%以上20%未満
住宅の応急修理費支援
上限30万円

診察再開 安心戻る
長野市豊野町の診療所
医師(左)の問診を受ける患者(中央)

生活保護費 相談を
長野市 被災受給者に呼び掛け
長野市は台風19号で被災し、生活保護費が滞り、市生活保護課は「引越した生活保護受給者に対し、市で生活保護費は「引越した窓口で相談するよう呼び掛け」し、代金が生活保護費で認められている。住まいや身財が使えらるる場合がある」としている。

生活保護費 相談を
長野市 被災受給者に呼び掛け
長野市は台風19号で被災し、生活保護費が滞り、市生活保護課は「引越した生活保護受給者に対し、市で生活保護費は「引越した窓口で相談するよう呼び掛け」し、代金が生活保護費で認められている。住まいや身財が使えらるる場合がある」としている。

御嶽海関 義援金協力呼び掛け 福岡
大相模の関御嶽海関(木 濃毎日新聞社を通じて送る。曾部上松町出身)が5日、福岡市内で開かれた「九州御嶽海関後援会」の激励会で、長野県内の台風19号被災地に向けた義援金の協力呼び掛けを行った。参加者約100人から14万5819円が集まり、信二は「関取が自ら支援を進めていた。後援会として何かしたかった」と話した。

全国で300人が避難
台風19号の被害は共同通信の集計で5日までに、死者は13都府県89人(災害関連死含む)、行方不明者は6人に上り、内府内不明者は6人に上り、3000人が避難所での生活を余儀なくされている。総務省消防庁によると、確認された住宅被害は8万棟余り。内訳は全壊が16都府県133棟、一部損壊が27都府県6978棟、床上浸水は17都府県3万2030棟、床上浸水は20都府県3万5448棟。厚生労働省によると、2県390戸で断水している。国土交通省によると、土砂災害は20都府県805件が確認され、堤防の決壊は7県の11河川140カ所。

生活保護費 相談を
長野市 被災受給者に呼び掛け
長野市は台風19号で被災し、生活保護費が滞り、市生活保護課は「引越した生活保護受給者に対し、市で生活保護費は「引越した窓口で相談するよう呼び掛け」し、代金が生活保護費で認められている。住まいや身財が使えらるる場合がある」としている。

御嶽海関 義援金協力呼び掛け 福岡
大相模の関御嶽海関(木 濃毎日新聞社を通じて送る。曾部上松町出身)が5日、福岡市内で開かれた「九州御嶽海関後援会」の激励会で、長野県内の台風19号被災地に向けた義援金の協力呼び掛けを行った。参加者約100人から14万5819円が集まり、信二は「関取が自ら支援を進めていた。後援会として何かしたかった」と話した。